

オイラーの公式 アーベル多様体 母関数 極限值 組み合わせ多様体座標変換 場の変換則 素粒子方程式 重力・反重力方程式 エントロピー不変量 Higgs 場 時間 質量 相対性原理 スピンネットワーク特異点理論 素数分布論 Hilbert 空間 対称性 正規部分群 Thurston 多様体 閉 3 次元空間 電弱相互理論 反重力の双対性電強相互理論 共時性 不確定性原理 確率論 宇宙と異次元空間一次独立 波動・粒子の相補性 ラプラス方程式 大域的微分方程式 Zeta 関数 単体量 微分幾何構造 量子群 カタストロフィー理論形態形成場 フロベニウスの定理ハイゼンベルク方程式 大域的微分方程式の真逆の方程式宇宙の逆さまは原子 重力波 単体量における大きさの量宇宙は空間と時間が無限から有限へと生成されたときから始まる遷移元素 ランタノイド アクチノイド原子 グループ毎に分けられる性質 要素 が素数の束の集合になっている時間の一方向性質量 体積 boson fermion

素数の束がゼータ関数の素数分布論を形成していて、DATABASE として Hilbert 空間にスピンネットワークが貼りめぐらされている。この Hilbert 空間が Thurston 多様体の微分幾何構造を形成していて、正規部分群を対称性をパリティの破れより、非対称性を帯びて、ラプラス方程式がこの非対称性を大域的微分方程式により形づくられて、重力波が単体量の大きさでゼータ関数を表している。ハイゼンベルク方程式から原子を求められて、その値が微細構造定数から宇宙の逆さまになっている。宇宙は空間と時間が無限から有限へと生成されたときから始まっている。原子は光量子仮説で遷移元素からランタノイドとアクチノイドへとゼータ関数からグループ毎に性質と要素の素数の束の集合論になっていて、5 種類の力から、電磁力と弱い力と重力が合わさって電弱相互理論を統合されていて、反重力を入れると電磁力と強い力と合わすと電強相互理論にも統合されている。この電弱相互理論は時間の一方向性を性質として持っていて、反重力の双対性から電強相互理論をも時間の真逆の一方向性を帯びていて、ベクトルをこれらの力から量子力学を持ち出すと共時性から時間が止まっていることがこれらの理論から証明できる。Higgs 場から光速度不変の法則を密度エネルギーからコントロールできていて、質量と時間が同じ地平線を世界線から同一視できて、トポロジーからこれらが同値ともわかる。この同値からスピンネットワークが体積の幾何学的変化から時間で各次元を行き来しているのを質量を持ち出すと、重力場が時空の湾曲度から質量が分かるが、この質量は時間と同型となり、スピンネットワークは微分幾何の加速度の組み合わせ多様体から質量を時間と場の変換則を使いスピンネットワークが質量と体積の密度変化の光速度不変の法則の書き換えでスピノール場の式に行き着く。アーベル多様体はゼータ関数と合わさるとカテゴリー理論へと行き着く。ゼータ関数は素数の束の各組み合わせ多様体から宇宙から原子までのレベルでアーベル多様体を積空間から接続するといろんな物理学の基底数を導ける事ができる。